

水土里ネット ながの情報

2022
NO. 14
夏号

長野県土地改良事業団体連合会
土地改良のしるべ



CONTENTS

- 令和4年度臨時総会
- 要望行動（県、県議会及び国会議員）
- 特集1 令和3年度農業農村整備優良地区
コンクール受賞地区の紹介
—いくさか地区（生坂村）—
- 特集2 第63回全国土地改良功労者表彰
受賞地区の紹介
—塩尻市田川土地改良区—
- 県からのお知らせ
- 農業遺産の紹介
- 人事異動

本会は、7月15日、長野市のホテル国際21で、令和4年度臨時総会を開催した。

藤原会長のあいさつの後、来賓の阿部知事、宮崎農林水産大臣政務官、平林農地整備課長が祝辞を述べ、都道府県水土里ネット会長会議顧問の進藤参議院議員からはビデオメッセージをいただいた。

提出された議案は、定款の一部改正（案）議決について、令和3年度事業報書、貸借対照表、収支決算書及び財産目録の承認について、令和4年度収入支出補正予算（第1号）（案）議決について、役員補欠選任についての4議案でいずれも原案どおり満場一致で可決された。



臨時総会の様子

役員補欠選任

大屋理事が新たに就任

令和4年度臨時総会で退任に伴う役員補欠選任が行われ、本会の定款に基づき選出された各支部1名の選衡委員が協議し、上松町長の大屋誠氏を理事候補として総会に諮り、満場一致で承認された。任期は令和4年7月16日から、現任役員の任期である令和5年3月31日をもって満了とする。



新たに就任された大屋理事

第64回通常総会の決議事項について県、県議会議員及び国会議員に要望行動を実施



要望の様子

県

本会は5月30日、県への要望行動を実施した。

藤原会長、羽田副会長、白鳥専務理事、所常務理事、五味理事、小田切理事、中田理事、峯村理事、高橋代表監事、中澤監事の10名が出席し、関副知事、小林農政部長、田中次長、平林農地整備課長に要望書を提出した。

はじめに藤原会長が「県の農業農村整備予算については地域の要望に応える予算を確保していただき、県のご尽力に心より感謝申し上げます。今後とも中山間地域の多い長野県の課題解決に向けて、本会も県と連携を図りながら農業農村整備の推進に努めてまいりたい」と述べた。

その後、白鳥専務理事が、安定的かつ計画的な事業の推進が可能となるよう、地域の要望を満たす予算を確保するための国への働きかけをはじめとする要望書の内容6項目について説明を行った。

関副知事より「要望のあった農業水利施設の長寿命化、基盤整備については、重要な事項だと認識している。防災減災についても、国の5カ年加速化対策を有効に活用し積極的に取り組みたい。引き続き事業予算の確保を国に要望するとともに、連合会と協力して事業を進めたい」との回答をいただいた。また、小林農政部長が6つの項目について県の現状と今後の対応について説明された。



回答を述べる関副知事

県議会

引き続き県議会に出向き、丸山議長、高島副議長に陳情書を提出した。

丸山議長より「陳情いただいた6項目につきましてはいずれも重要な課題であり、県議会でも所管の委員会で十分な審議をして対応していきたい」との回答をいただいた。

◀ 左から羽田副会長、高島副議長、丸山議長、藤原会長

6つの 要望項目

1. 土地改良事業の計画的・安定的な推進のため、必要な予算を確保すること。
2. 高収益作物の導入や営農の効率化を進めるため、区画整理や暗渠排水など農地の条件整備の更なる推進を図ること。
3. 農村地域の国土強靱化のため、農業水利施設の長寿命化対策及び豪雨・耐震化対策の更なる推進を図ること。
4. 農業競争力強化のため、スマート農業に対応した基盤整備や農業農村インフラ管理の省力化・高度化の更なる推進を図ること。
5. 脱炭素社会の実現のため、農業水利施設の省エネ化・再エネ利用の推進に向けた支援の充実に取り組むこと。
6. 地域の多様なニーズに対応した整備を継続するため、農業農村工学技術者の確保・育成のための支援を推進すること。

国会議員

本会は6月14日、県選出の国会議員に対して、以下の3項目について要請行動を実施した。藤原会長、白鳥専務理事、所常務理事及び土地改良区関係者21名が出席し、若林健太衆議院議員、務台俊介衆議院議員、井出庸生衆議院議員、宮下一郎衆議院議員、中川宏昌衆議院議員、後藤茂之衆議院議員（秘書対応）、宮崎雅夫参議院議員（秘書対応）、進藤金日子参議院議員（秘書対応）、宮島喜文参議院議員（秘書対応）へ要望書を手渡した。

各先生より、農業農村整備事業の重要性は十分に理解しており、引き続き予算の確保に努める旨の回答をいただいた。



若林健太衆議院議員



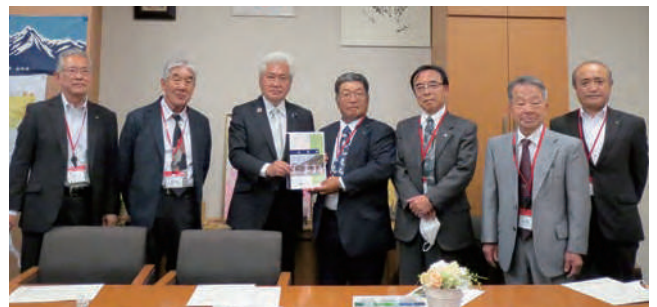
宮下一郎衆議院議員



井出庸生衆議院議員



中川宏昌衆議院議員



務台俊介衆議院議員

3つの 要望項目

1. 土地改良事業の計画的・安定的な推進のため、必要な予算を確保すること。
2. 高収益作物の導入や営農の効率化を進めるため、区画整理や暗渠排水など農地の条件整備の更なる推進を図ること。
3. 農村地域の国土強靱化のため、農業水利施設の長寿命化対策及び豪雨・耐震化対策の更なる推進を図ること。

中山間地域振興部門農村振興局長表彰 いくさか地区（生坂村）

高収益生食用ぶどうへの転換や独自ブランドの展開で収益向上 条件不利地を克服し過疎化に負けない魅力的な農村へ

長野県生坂村は、松本市と長野市の中間に位置する山村で、狭い河岸段丘に開けたわずかな平坦地を利用して農業が営まれてきました。昭和60年代からは巨峰産地を形成し「山清路巨峰」のブランド確立に取り組んできましたが、10年ほどすると農家の高齢化や農作物の価格低迷等による後継者不足が深刻化し、危機的な状況となりました。

そこで、次世代の担い手確保と農地保全に向けて平成7年に「生坂村農業公社」を設立。新規就農者向け研修事業や農地の手配、村営住宅の提供などの支援を平成10年度から実施しました。

そして平成28年度からはいくさか地区として中山間地域総合整備事業に着手し、大日向工区において更なる産地化を目指し、狭小で不整形な水田の区画整理や排水路の整備、畑地かんがいの自動化などを実施。約8haの田畑のうち、これまでに5.5haを収益性の高い生食用ぶどう畑に転換しました。



生坂村（大日向工区）



就農支援体制を確立 これまでに19家族が新規就農

生坂村農業公社が、長野県農地中間管理機構事業を活用し、担い手のいない農家や高齢化により使われなくなった農地を新規就農者に斡旋しています。新規就農者は、公社から貸し出された研修園で研修期間中に栽培・経営の基礎を学び、研修終了後にはそのまま研修園の一部を継続して借り受けることで、農地と収入の問題を解消し、営農をスタートすることが可能です。研修制度や定住支援などのサポートが実を結び、現在までに19家族が新規就農して村内に定住。現在も5家族が農業研修を行っており、今後も新規就農者の増加が期待されます。



新規就農した若い世代の担い手

また新規就農者の増加により、少子化が課題となっていた状況から、地域に子どもの声が聞こえるようになり地域全体で活気が生まれています。



新たなブランドの展開・販路拡大でさらなる収益向上を目指す

生坂村では、ブランド化にも力を入れています。もともと生坂村の巨峰は「山清路巨峰」として市場で高い評価を得ていましたが、事業の実施にあわせて新たなブランドイメージを展開しました。生坂村産のぶどうには宝石にも負けない輝きがあることから「い(1)く(9)さ(3)か」と宝石の重量単位「カラット」を組み合わせた「イクサカラット」とネーミングしPRを行っています。現在は巨峰に加え、シャインマスカットや長野県オリジナル品種「ナガノパープル」、「クイーンルージュ」をはじめ、



イクサカラットブランドロゴ

様々な品種を栽培しています。新規就農した若手農家の中には従来の方法にとらわれず、インターネットを活用した新たな販売ルートの開拓や、あえて種あり巨峰の希少性を考慮した品目を販売する農家も現れ、他の農家にとって大きな刺激となっています。

毎年9月には道の駅「いくさかの郷」で山清路ぶどう即売会を開催しています。農協関係者や多くの農家が巨峰を中心に生坂産ぶどうを販売、生坂産のぶどうを求めて例年大勢の方に来場いただきご好評をいただいています。



山清路ぶどう即売会

女性ならではの発想で特産品開発道の駅を有効活用し村の活性化を図る

整備事業で新設した道の駅いくさかの郷を拠点に、女性が中心となり地元食材を使った商品開発を行なっています。女性ならではの発想力を発揮し、これまでに小麦や大豆を使ったおやきやおまんじゅう、豆腐、味噌、ドーナツなどを開発。製造した商品は道の駅の直売所や直営食堂「かあさん家」で販売するほか、移動販売車をつかった出張販売やインターネット販売も行い、販路を拡大しています。特に郷土食のおやきは大変人気があります。こうした取り組みは、原材料を提供する農家の所得向上だけでなく、作付けの拡大による耕作放棄地の減少にも貢献しています。



特産品開発部のおかあさん達



生坂村役場 振興課長

中山茂也さんの声

◆未来の農業を見据えた地域振興を

生坂村は山が多く平坦地が少ない条件不利地です。高齢化・過疎化といった農業だけでなく村全体としての課題を多く抱える中で、5年10年先でも農家の方が農業をしやすい環境を整備するにはどうしたらよいか検討、協議を重ね、中山間総合整備事業の実施に至りました。高齢化により不在地主が増加し営農が難しかった地区も事業でぶどう園を造成、維持管理すら大変な状況からぶどう畑として蘇り、今も県外含め各地から多くの就農希望のお問い合わせをいただきます。

事業を実施して以前とは比較にならないくらい農業がしやすい環境に近づいていますが、これで終わりということではありません。ぶどう団地についても多くの就農希望者の要望に応えられるよう面積拡大が必要ですし、ぶどう以外の作物でも生坂村独自の高付加価値の創出に向けて研究開発を続ける等、未来の農業を見据えた形で地域振興に取り組む必要があります。

今後も研修事業といったサポートを通じて農業のみならず、生坂村全体として地域資源を活用した魅力ある村づくりを進めていきたいと思っています。



中山さん

写真左のキャラクターはイクサカラットをPRする「カラットリン」
頭のてっぺんにあるぶどう型のアンテナと黄色の長靴がトレードマーク

全土連会長表彰 塩尻市田川土地改良区

塩尻市田川土地改良区の受益地は、一級河川の田川と奈良井川の合流地点に位置する塩尻市の主要な農業地帯です。当地区は、農地が集落の中に複雑に入り組んでいたため、ほ場整備にあたり複雑な条件を抱えていましたが、地元との調整を重ね、昭和49年の改良区設立とともに県営ほ場整備事業が実施され、現在は揚水機施設5箇所用水を確保し406haを管理しています。

令和3年度第63回全国土地改良功労者表彰で「全土連会長表彰」を受賞した塩尻市田川土地改良区の宮城理事長に土地改良区の今後の展望や課題についてお話を伺いました。



宮城理事長



これまでに取り組んできた主な事業

昭和49年に塩尻市内で最初の県営ほ場整備を実施し、昭和53年には県営ほ場整備事業と平行して第二次農業構造改善事業を実施しました。大型機械を導入した他、野菜ハウス10棟、ライスセンター・野菜集荷所が建設され、地域の営農環境整備に大きく貢献しました。

平成8年に揚水機2基のポンプのオーバーホールを実施。平成23年度の頭首工診断調査及び平成25年度の農業水利施設保全合理化事業により、39箇所の頭首工施設を診断し、一層の農業経営の安定を目指しています。



改良区の受益地（吉田地区）



施設の維持管理

改良区の役員、総代、組合員からなる水利調整委員会・施設管理委員会が組織され、計画的な配水・維持管理を行っています。

日常的な管理については水利施設、水系ごとに組織された水利組合や多面的活動組織で泥上げ、草刈り等の維持活動を行っています。組合員には代替わりした若い方や兼業農家の方もいますが呼びかけをして全員活動に参加していただいています。



組合員による水路の泥上げ



本土地改良区の特徴

◆多面的機能支払制度の活用

平成26年度に多面的機能支払交付金の活動組織として「塩尻市田川地区みどりを守る会」が立ち上げられました。

年1回守る会で施設点検・機能診断を実施。修繕が必要な施設について改良区と守る会の合同委員会で検討します。改良区役員で現地確認を行い、守る会で長寿命化事業を実施することで計画的な維持管理が行われています。改良区の役員・組合員が守る会の支部長・構成員を兼任することで、改良区と多面的の密接な連携が可能になりました。

また、平成29年度からは直営施工による水路布設・排水路柵設置・目地補修を実施。取組み開始から現在までに7箇所直営施工を行いました。事業費の軽減だけでなく維持管理に対する組合員の意識向上にも繋がっていると実感しています。



直営施工による水路布設

◆様々な研修会の実施

組合員の方に「自分たちの農地は自分たちで守る」という意識を持ってもらうため、例年様々な研修会を開催しています。業者の方を講師に迎え、実践的な水路の目地詰め講習会を2、3年に1度実施しているほか、農文協発行のDVDを使用して草刈りや泥上げといった多面的の基本的な活動の研修会を実施しています。令和3年度は、ドローン導入のきっかけになれば良いと、当土地改良区が発起人となって近隣の改良区と共催で種蒔きドローンの実機デモンストレーションを行い、130名近くの組合員に参加していただきました。



目地詰め講習会



ドローン研修会



今後の展望や課題

改良区の受益地でも耕作者の高齢化が進み、後継者不足が課題になっています。代替わりした組合員にも兼業の方、土地持ち農家の方が増えていますが、機械組合や請負団体に委託を行い耕作放棄地の発生防止に努めています。

若い組合員に自分の田んぼを自分で守るという意識を持ってもらうことが私達の役目だと感じており、研修会の他にも意見交換の場を設けて積極的に交流を図っています。

ここ数年は新型コロナウイルスの影響で中々研修会が実施出来ていませんが、今後も組合員の技術・意識向上に繋がる研修会を実施するほか、農業水利施設の維持管理の重要性、土地改良区の必要性を知っていただく活動をしていきたいと考えています。

塩尻市田川土地改良区

- ・所在地 長野県塩尻市大門7-3-3
塩尻市役所内
- ・関係市町村 塩尻市
- ・設立年月日 昭和49年6月19日
- ・受益面積 406ha (R4.4.1現在)
- ・組合員 916人 (R4.4.1現在)

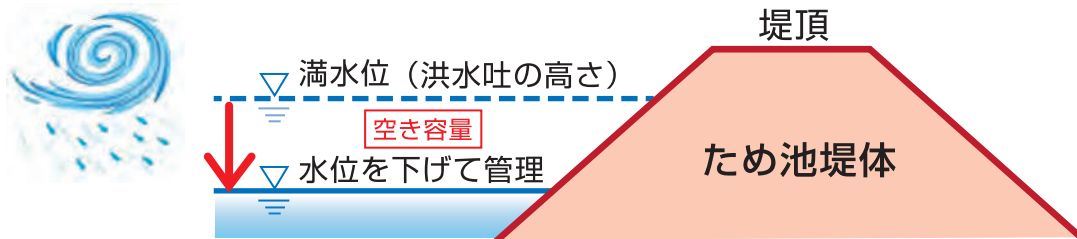
農業用ため池を
所有・管理する皆さまへ

ため池を活用した 雨水貯留の取組

～地域の防災力を強化し、流域治水へ～

非かんがい期におけるため池の低水位管理のお願い

ため池は、かんがいのために水をためていますが、水位を下げ管理することにより、大雨や地震時に、ため池の堤頂からの越流による決壊のリスクを減らし、**堤体を守る効果**があります。
また、空き容量をつくっておくことで、流れ込む雨水を一時的にためて、下流に流れ出る水量を減らす**洪水調節の機能**もあります。



営農にため池の水を利用しない非かんがい期に、低水位管理を行うことで、台風などの大雨の際、ため池に雨水をためることができ、洪水被害から下流域の人家や農地などを守ることにつながります。

かんがいの時期や必要な水量は、ため池ごとに違います。**営農に影響しない範囲で、地域の実情に合わせて取り組んでください。**

かんがい期					非かんがい期							
4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
← 営農に使用					→ 台風シーズン		← かんがい期に向けて貯水					
					← 低水位管理							

長野県では、「ため池を活用した雨水貯留の取組に係る指針」を作成しました。参考にしていただき地域の取組にご活用ください。



(お問い合わせ先)
農政部農地整備課防災担当
☎026-235-7239 (直通)

佐久地域振興局
上田地域振興局
諏訪地域振興局
上伊那地域振興局
南信州地域振興局
木曾地域振興局
松本地域振興局
北アルプス地域振興局
長野地域振興局
北信地域振興局

農地整備課 ☎ 0267-63-3118
農地整備課 ☎ 0268-25-7133
農地整備課 ☎ 0266-57-2916
農地整備課 ☎ 0265-76-6843
農地整備課 ☎ 0265-53-0419
農地整備課 ☎ 0264-25-2222
農地整備課 ☎ 0263-40-1951
農地整備課 ☎ 0261-23-6515
農地整備課 ☎ 026-234-9518
農地整備課 ☎ 0269-23-0213

ため池を活用した雨水貯留の取組に係る指針-長野県

<https://www.pref.nagano.lg.jp/nochi/tameike/tameike-usui-shishin.html>

「流域治水」の取組

【流域治水への転換】

近年、気象災害が激甚化・頻発化しています。

そのため、これまでの国や県による治水対策に加え、市町村、民間事業者、県民など流域のあらゆる関係者が協働し、流域全体で水害を軽減させる「**流域治水**」に取り組むことが必要です。

甚大な水害が発生した長野県においては、洪水被害軽減は最優先の課題であり、県全体で「**流域治水**」の取組を進めていきます。



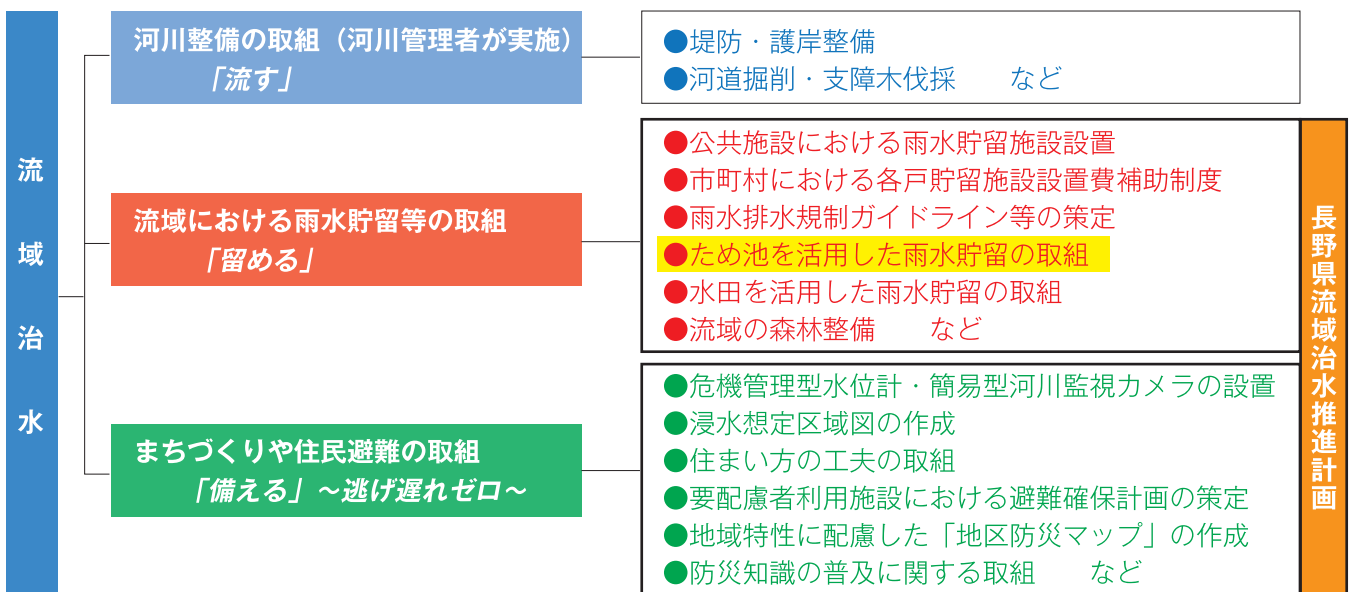
流域治水のイメージ

【長野県流域治水推進計画】

「流域治水」の推進に当たっては、流域の関係者全員が意識を共有し、計画的に取り組む必要があります。

県では、令和3年2月に「長野県流域治水推進計画」を策定し、令和3年度から7年度まで（5か年）の取組目標を定めました。

この計画に基づき取組を進めることにより、再度災害防止・軽減、逃げ遅れゼロ、社会経済被害の軽減を実現し、安全・安心な地域の形成を目指します。



高瀬川右岸用水

管理者：高瀬川右岸土地改良区、昭和電工株式会社

農業用水と発電用水の共同利用

土地改良区
の概要

- ・所在地 大町市常盤3629-14
- ・関係市町村 大町市, 松川村, 安曇野市
- ・設立年月日 昭和27年1月24日
- ・受益面積 1,745ha (R4.4.1 現在)
- ・組合員 1,584人 (R4.4.1 現在)

高瀬川右岸用水の主な施設

1 大出頭首工

主に高瀬川から取水をし、かんがい用水共用の発電用導水路（略図緑）を流下します。
発電用導水路は昭和電工(株)が、維持管理を行っています。



2 仏崎分水



大出頭首工から取水した導水路最初の分水。導水路（水系図緑）から取水し、受益地上流（水系図黒枠内）をかんがいでいます。

3 和田川分水



仏崎分水で取水した用水が再び導水路に合流、和田川分水をはじめとする4つの分水で取水し、導水路より下流の地域をかんがいでいます。
(写真左が導水路本線・右が分水門)



5 石の坪頭首工

高瀬川右岸地域で最大規模の頭首工。川西地区をかんがいでいる「川窪堰」、柳田・広面・新屋敷地域をかんがいでいる「西堰」、常盤西山の小西山、松川村の反川・中村・町屋地域をかんがいでいる「松川中堰」にそれぞれ分水しています。



4 横溝堰

改良区の水利は高瀬川からの取水の他、乳川から取水する水路もあり、その1つに横溝堰があります。この水路の上流部は今でも土水路または石積みになっており、その開削前は今から500年以上前とも言われています。

現在は国営アルプスあずみの公園の溪流ゾーンの一部として、公園を訪れる人々の目を楽しませています。

高瀬川右岸土地改良区の奥原事務長にお話を伺いました

○現在力を入れて取り組んでいることを教えてください

台風を始め大雨が予想される時には、あらかじめ取水を停止して溢水被害防止対策を講じていますが、最近は地球温暖化の影響から雨量が想像を超えることが多く、断面が大きい幹線水路でさえも、雨水と排水のみですぐに満水状態となり、各地で宅地および農地へ溢水が発生しています。そのため、実際に溢れた箇所を中心に水路嵩上げ工事を行ってきました。また、末端小水路については老朽化に伴う漏水も多くなりつつありますが、地元の多面的組織と連携をとりながら対応にあたっています。

○これからの課題を教えてください。

幹線及び準幹線水路は昭和30年代から50年代頃に造成されたものが多いため、目地部分を中心に著しく老朽化が進んでいます。ストックマネジメント事業の結果から、将来的に全面改修の可能性もあり、工事に伴う資金調達を農業者だけで担うのは限界があります。水路は農業用のみでなく、防災及び生活面など多面的役割を担う重要施設という観点から、資金面を含め、関係する皆様の理解と多大なる協力を得ることが急務であり課題となっています。

また、以前は自己完結型農家中心で自分たちが使う水路は自分たちで守るという意識が強く、水路沿の草刈りも隣接耕作者が当たり前のように行っていました。最近では農地の利用集積が進んだことと農村の混住化によって水路に対する考え方も変わり、草刈りをはじめとした水路の維持管理に係る対応が難しくなっています。いかにして意識を高められるか、そのための対策が課題です。

長野県からのお知らせ ②

たため池フォーラム 信州 in 上田 2022

ありがとう ため池

フォーラム
令和4年11月10日(木)
14:00～17:00
会場 上田市サントミュージー

現地見学会
令和4年11月11日(金)
8:00～14:30
会場 塩田平のたため池群、御射鹿池ほか

主催 ため池フォーラム信州 in 上田実行委員会 (長野県、上田市、長野県土地改良事業団体連合会)
後援 長野県農業、全国土地改良事業団体連合会、全国たため池整備事業推進協議会、全国農村振興技術者会、長野県農村振興局、長野県農林部、長野県建設部

2022年11月10日、11日、たため池フォーラムが長野県上田市で開催されます。コロナ禍を受け2年ぶりの開催です。フォーラム参加は無料です。皆様のご参加をお待ちしています。

現地見学会

■上田市内コース

「日本遺産・たため池百選 信州上田・塩田平を巡る旅」
・たため池百選「塩田平のたため池群」(舌喰池等)
・信州の鎌倉 塩田平(安楽寺国宝八角三重塔、前山寺、生島足島神社)・上田城跡公園



中野前池

■県内コース

「信州の水と歴史を巡る旅」
・白樺湖 ・たため池百選「御射鹿池」
・世界かんがい遺産「乙女滝(大河原堰)」
・尖石縄文考古館(国宝縄文のビーナス、仮面の女神)
・国宝松本城



御射鹿池

■お申し込みはこちら (Webサイト)

URL: <https://www.mwt-mice.com/events/tameike2022/login>

■お問い合わせはこちら

●参加申し込みに関するお問い合わせ
・名鉄観光サービス(株)長野営業所
TEL: 026-244-8577
Mail: tameike2022@mwt.co.jp



上記QRコードを読み取ると申し込みサイトが開きます

●開催に関する問い合わせ

・長野県農地整備課 TEL: 026-235-7239
・上田市土地改良課 TEL: 026-823-5123
・水土里ネットながの TEL: 026-233-4281

※新型コロナウイルス感染拡大の状況により、開催方式の変更等を行う場合があります。

◎人事異動(農林水産省)

農林水産省農村振興局 (6月16日付)

*幹部のみ掲載

農村政策部

総務課長(水産庁漁政部漁業保険管理官)
部長(農村振興局総務課長)

神田 宜宏
佐藤 一絵

農林水産省関東農政局 (6月28日、7月1日付)

*幹部のみ掲載

農村振興部

次長(農村振興局整備部農地資源課長)
次長(経営局保険監理官)
部長(国土交通省不動産・建設経済局地籍整備課長)

北林英一郎
谷 睦枝
佐々木明徳

農林水産省関東農政局退職 (6月28日付)

次長

野原 弘彦

◎人事異動(長野県土地改良事業団体連合会)

長野県土地改良事業団体連合会 (7月1日付)

南信事業所 東信事業所

技術係技師(本部事務局事業課技術係試備職員技師)
技術係技師(本部事務局事業課技術係試備職員技師)

桐生 将貴
鈴木 香乃

長野県土地改良事業団体連合会 退職 (6月30日付)

本部事務局事業課技術係試備職員技師

矢野 拓巳



表紙写真紹介 ————— 矢原堰(安曇野市)

犀川に水口を求め、穂高神社先の欠ノ川まで等高線に沿って流れる横堰です。1654年、矢原村(安曇野市穂高矢原)庄屋臼井弥三郎は、度重なる失敗にもめげず松本藩に建設許可願を出し続け、不屈の精神をもって開削。通水を成し遂げました。この成功は、横堰の先駆けとして後の新田堰、勘左衛門堰、拾ヶ堰などに引継がれ、不毛の原野は米どころへと変貌を遂げました。

文:信州の農業遺産魅力ガイドより(長野県 農政部 農地整備課 発行)



みどり
水土里ネットながの
土地改良のしるべ

発行：令和4年8月20日（年4回発行）

発行所：長野県土地改良事業団体連合会

〒380-0838 長野市大字南長野字宮東452番地の1

TEL026-233-4281 <http://www.nag-doren.or.jp>

土地改良のしるべ編集人：白鳥 公晴